

施工要領書

2011/3/1

<「豊ヘルス」 稚内珪藻調湿・消臭タイル>

- ・施工概要<コンクリートモルタル面・ボード下地面・木製下地面の場合>
- ・使用する接着剤は、ホルマリンや VOC ガスが含まれない、シリコン系接着剤

<施工時に使用する主な道具>



右から

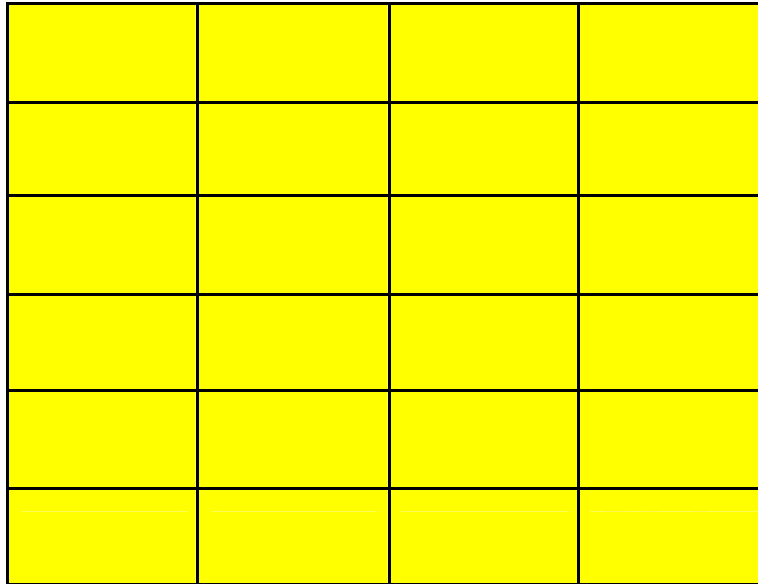
- ・タイルカッター（押し切り機）又は
 大き目のカッターナイフ（この時は定規も必要です）
- ・コーキングガン（接着剤を塗布する為に使用します）
- ・カートリッジ型接着剤（ホルマリン含まないシリコン系接着剤）
 推奨品＝コニシ製 MPX-1（ホワイト） 333ml（☆☆☆☆）
- ・粗めのサンドペーパー（タイルの切断面が粗い時に研磨する為に使用）
- ・爪楊枝（目地を付ける為の調整用です）

他に、巻尺、グラインダーなど 必要に応じて他の工具を使用して下さい。

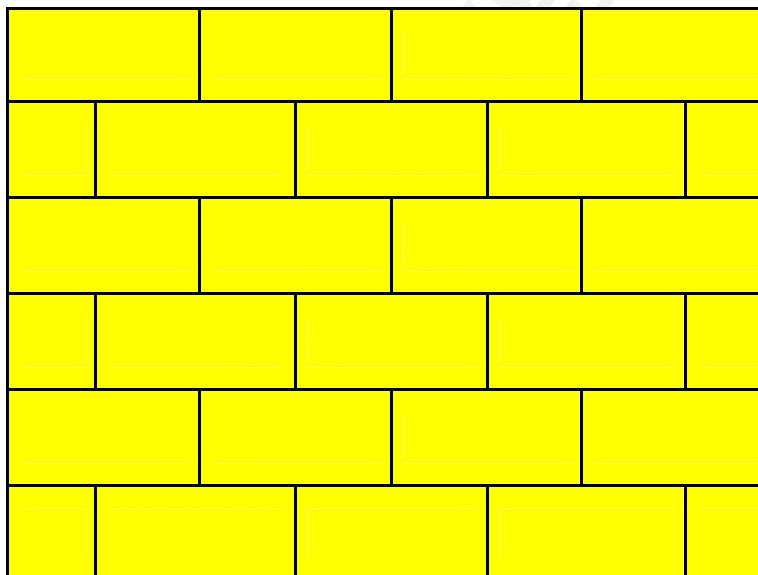
☆ 貼り方

タイルの貼り方は下記の通り大きく分けて2通りになります。

1 > 通し目地貼り (俗称: イモ貼り) ・タイルの目地が縦と横とも通ります。

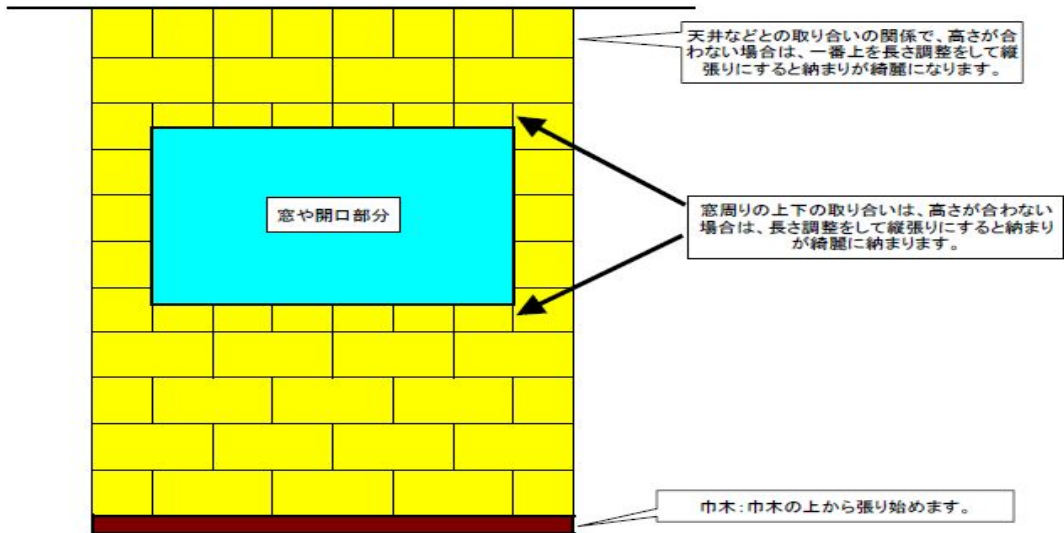


2 > 馬踏み目地貼り (俗称: 馬貼り) ・タイルの縦目地がタイルの半分ずつに来ます。

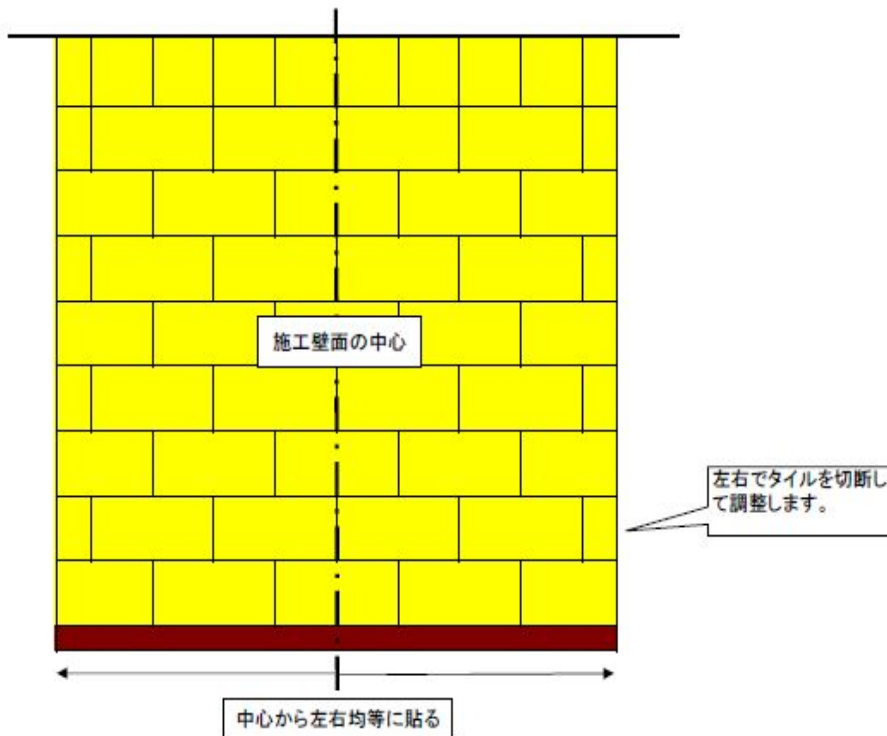


3 > 納め方 次の通りタイルの納め方（タイル割）の一例を示します。

・上下の納め方

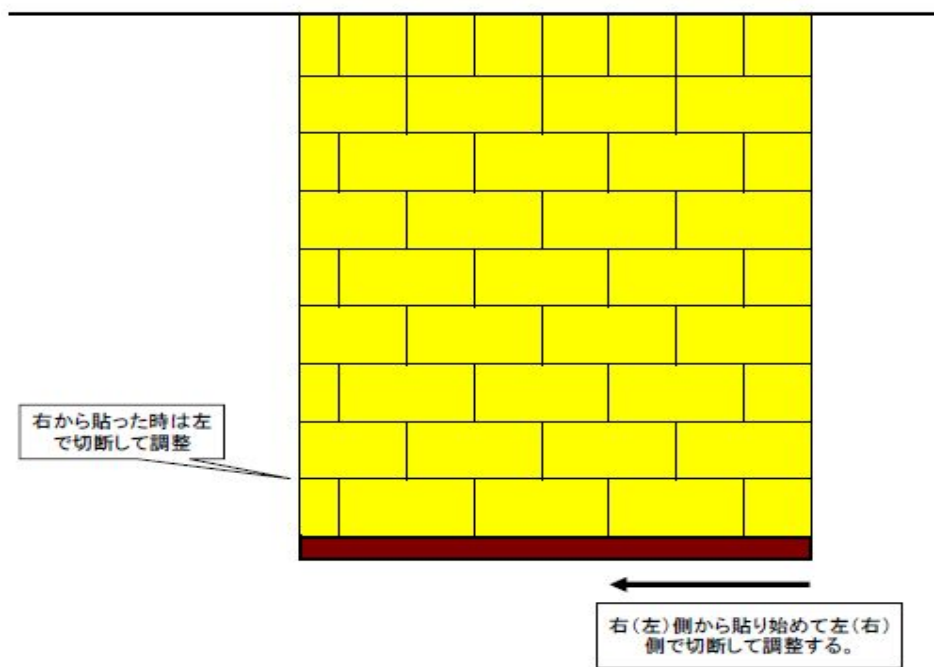


・壁の中心に対して左右均等に貼る



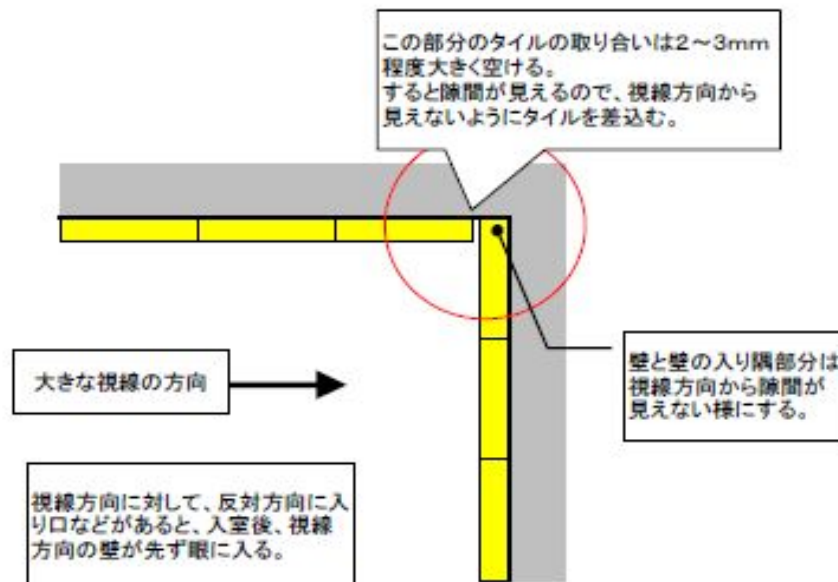
一番基本的な貼り方。大きな壁等はこの方法で貼る事が多い。

- ・右又は左の片側から貼り始める場合



左が視線的に重要な場合は左から貼る。

- ・壁の入り隅部分の納まり



※注 意 点

1、タイル割りに付きましては、施工する壁の配置などを十分に考慮してお客様と御相談の上で行ってください。

2、切断して調整する場合は、切断した物があまり小さくなると納まりが見苦しい為、なるべく大きな物で入る様に調整して下さい。

もし、どうしても小さくなるような場合は、その隣の物を切断して調整して下さい。

3、実際に施工する場合、タイルを貼る前に、箱ら出してタイルの実物を5～6数枚並べて寸法を確認して下さい。

カタログ上に記載されていますサイズは基本の寸法です。タイルその物は焼物ですので寸法誤差があります。その為、御注意をして頂く様にお願いします。

その上で、施工します壁とのタイルの割り方を調整して下さい。

<施工下地について>

●石膏ボード下地素地 < 推 奨 >

(300～450 mm ピッチで木胴縁下地にビス施工された物)

厚み=9.5 mm以上

●珪酸カルシウム板・コンパネ及び木合板による下地

珪酸カルシウム板や木製下地は収縮が大きい為、下地のつなぎ目でタイルが跨ぐと、下地の収縮より割れる恐れがあります。

場合によっては、施工自体を避ける又はエクспанション目地（亀裂誘発目地）を入れて区切る等の方法を取って下さい。

施工を行う場合、収縮への対策としてタイルを張るときの接着剤を少し厚めに塗布して下さい。

●セメントモルタル・コンクリート・ブロック下地

壁面の凹凸、不陸、段差、ザラツキが無いように施工し、出隅入り隅の精度を確保の上行ってください。

また、下地の状況が数年経過している場合は強度が低下している場合がありますので、コニシ製ボンドシールプライマー#25によりプライマー処理を行ってください。

●クロス下地の場合

クロスの下地が石膏ボードの場合、タイルを施工する部位のみタッカーで補強した後に施工して下さい。

補強後、直接クロスの上から施工が出来ます。

タッカーで補強が出来ない下地の場合、例えばモルタル下地にクロスが貼られている時は、クロスを剥がして下さい。クロス施工の不陸調整の為にパテ処理が施されている場合、パテ材も可能か限り落として下さい。

補強しないでタイルを張ると、クロスの接着強度は弱い為、タイルの重みでクロスが剥がれ落ちる危険があります。

●ビニールクロスの場合

ビニールクロスの場合は、接着剤のMPX-1との相性が悪く接着強度が出ない場合があります。

その為、ビニールクロスの場合は、薄手のベニヤをタッカー（可能であれば、木胴縁に木ねじで固定）などで捨て張りして下さい。

その際に、つなぎ目の部分は5mm程度あけて収縮に備えてください。

尚、収縮への対策としてタイルを張るときの接着剤を少し厚めに塗布して下さい。

※尚、リフォームでの施工時には、下地の傷みの有無や強度を十分点検し、確認をした後にタイルを施工して下さい。傷みが大きい場合は、下地の交換をお願いします。
例：下地自体が膨らんでいる・フワ付いている・湿気を吸った為にボロボロになっている等。

※上記に記載した土の様な下地の場合でも、基本的な施工要領は若干の調整が必要ない害は基本的には同じです。

☆貼ります！



・施工する時は、掃除機のヘッド部分がタイルに当り、破損を防止する為に床との取り付け部分に巾木（矢印部分）を着けて、巾木の上部分から貼り付けていきます。

60mm以上の高さを推奨
厚みはタイルよりやや厚めの12mm程度の木巾木



・コーキングガンに、カートリッジの接着剤をセットします。

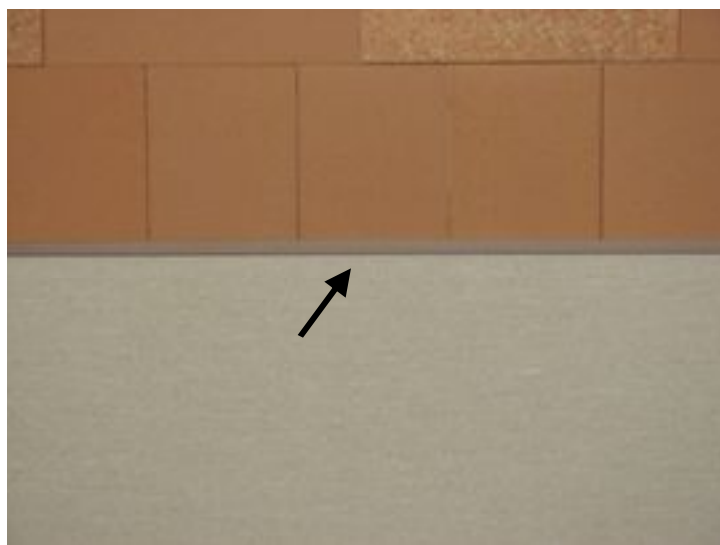
・そして、写真のようにTP/100-10の場合は3mmの太さ程度の2本筋で、接着剤を塗布します。



・TP/210-10の場合は3本筋です。



・最初は巾木の上部分より貼りつけ、上へと貼り上ります。壁に貼り付けるときは、指先でタイルをもみ込む様に貼っていきます。



・途中の少し高い部分や、壁面の途中の高さから張り付ける場合には、タイルを下側から支えになる様な、額縁（一部分）を先の壁に取り付けて、そこから上に張り上げると綺麗に収まります。

・切斷について



- ・タイルを切斷する時は、タイルカッター（押し切り機）を使用して下さい。
- ・施工に適した寸法を測り、セットして下さい。
- ・押し切り機がない場合は、大き目のカッターナイフで定規に沿って切れ目を入れてください。

・切り傷及び切れ目を付けた後、無理に力任せに押し割ろうとしないで下さい。柔らかい素材なので、違う形に割れる原因となります。



- ・もし割り辛い場合は、テーブル等、台の角を利用して、切り傷を台などの角に合わせて、両手で押し割ってください



- ・ 割り口面がザラ付いたり、形状が施工に支障がある場合は、粗目のサンドペーパーを平らな物に巻き付けて平滑にし、その上でタイルの切断面を研磨して下さい。

※コンセント周り、パイピングなどの複雑な形状の所を避ける場合は、グラインダー等を使用して、その形状に合わせて切断して下さい。

グラインダー（ダイヤモンドホイール）などの器具を使用する場合は、粉塵が出ますので、使用する場所を選び、周辺に迷惑を掛けないように行ってください。

・目地調整について



・施工の時は、タイルの目地（タイル同士の隙間）を縦・横とも**1～1.5mm程度取って**貼り付けて下さい。

・横目地は、接着剤が硬化するまでの間、タイルがダレ落ちて来ますので、爪楊枝をパッキン代わりに差込目地の隙間とタイルの高さを調整して下さい。

・接着剤は、室温で30分～40分で硬化します。

・その後、**爪楊枝を回す様**に引き抜いて取ってください。ただ引っ張り抜くと、タイルの角が欠ける恐れがありますので、必ず回す様に引き抜いてください。



・貼り上がりの目地は、写真の様に成ります。

・縦・横に目地を付ける事で、アクセントになります。

・目地を開ける理由は、目地によりタイルの小口面も吸放湿が出来るようにする為と、タイルは焼物の為に**寸法誤差**があるので、その調整として開けます。

・目地には目地材は詰めず、そのままです。



- ・貼り付けが終了し、接着剤が硬化した事が確認できた後に、爪楊枝を全て外します。
- ・その後は、切り粉等を取り除く為、カラブキ又は水で絞った雑巾でタイル全面を拭き掃除して下さい。

これで終了です。

ご不明な点やご質問がある場合は、お問い合わせ下さい。

鈴木産業株式会社